

栗山町立栗山小学校における土曜授業の取組内容

栗山町立栗山小学校では、家庭や地域等との関わりを大切にした「地域とともにある学校づくり」の充実を重点に、年5回の土曜授業に取り組んでいます。

■ 年間スケジュール ■

回	実施日	内容	教育課程上の位置付け
①	4月15日	○授業参観日	各教科
②	6月24日	○くりっ子クリーン作戦	学校行事（勤労生産・奉仕的行事）、総合的な学習の時間、生活科
③	11月11日	○くりっ子防災教室	学校行事（健康安全・体育的行事）、総合的な学習の時間、生活科
④	1月20日	○くりっ子福祉講演会	総合的な学習の時間、生活科
⑤	2月17日	○もちつき	学校行事（勤労生産・奉仕的行事）、総合的な学習の時間、生活科

■ 取組の概要 ■

家庭や地域等とねらいを共有した「くりっ子クリーン作戦」の実施

第2回の土曜授業では、学校運営協議会が中心となって、校区の町内会などと連携し、自分たちの住む地域に奉仕する「くりっ子クリーン作戦」を実施しました。



【教職員や地域の方から説明を受ける様子】



「くりっ子クリーン作戦」は、自分の住む地域をきれいにする奉仕の気持ちを育むとともに、地域の方とのふれあいを大切にする児童の意識の向上を図ることをねらいとして実施しました。

当日は、「栗山町をきれいに」を合い言葉に公園や道路などを地域の方と一緒に、楽しそうに清掃活動に取り組む児童の姿が見られました。



【地域の人たちと一緒に清掃活動を行う様子】

「土曜授業」実践事例（平成29年度 年間6回実施）

北斗市立島川小学校

1 実践事例の内容

＜授業を土曜日等に実施することの利点を生かした効果的な取組＞

土曜日実施により児童の家族や地域の方々などに参加いただき、もちつき体験や料理作りの協働や会食を通して、ねらい等を家庭や地域住民と共有できた。

2 実践事例

(1) ねらい

- ① 日本古来の伝統行事の雰囲気味わいながら、児童相互や保護者、地域の方々と共に感謝・協力し活動する態度を養う。
- ② 日本人の主食である米について見識を深めるとともに、秋の実りに感謝する態度を養う。

(2) 取組の概要 「もちつき集会」

地域の教育資源を活用した生活科及び総合的な学習の時間

- ① 5月「田植え」→5～10月「稲の観察」→9月「稲刈り・天日乾燥」→11月「脱穀・粃すり・精米」→11月「もちつき集会」（まとめと発表、会食等）
これら一連の体験的な学習を通して稲に関する学習をまとめ、プレゼンテーションの仕方を工夫して発表し、質疑・応答する。
※まとめの発表の仕方は年度により異なる。昨年度は自由研究発表形式、今年度はクイズを取り入れて発表した。
- ② 父母、兄弟・姉妹、祖父母、地域住民を招き、児童の「縦割り班」で協力して「もちつき」を行い、一緒にもち料理を作り、楽しく会食する。



【研究発表】



【もちつき体験学習】



【会食】

(3) 取組のポイント

- 地域の人的・物的資源を活用して社会に開かれた教育課程の理念を具現化し、PDCAサイクルで改善を図る。
- 国語、道徳、特別活動等との関連を図りながら教育課程やいじめ未然防止・早期発見プログラムに位置付ける。まとめや発表で言語活動の充実を図る。

3 児童や保護者の声＜学校評価（自己評価）用アンケート調査結果の自由記述から＞

- ・児童回答：もちつき集会があるから楽しい。
- ・保護者回答：もちつき集会の映像を見た他校の保護者から「楽しそうでよかった」と意見がありました。少人数で運営は大変でしょうが、続けていただけたらと思います。
- ・地域の方回答：子どもたちの姿が素晴らしいです。日頃のご指導ありがとうございます。生き生きと学んでいる様子がよく分かります。

【成果と課題】

- 児童の家族、地域の方々等とふれ合うことにより、児童の豊かな心を育むことにつながった。
- 学校行事などを土曜授業で行うことで、平日の授業時数の確保につながっている。
- 学校、保護者、地域、関係機関と目標を共有し、学校の教育活動への理解を得て、連携・協働を一層深める必要がある。

「土曜授業」実践事例（平成 29 年度 年間 6 回実施）

北斗市立沖川小学校

I 異校種と地域・保護者と連携して道德教育を推進する取組

道德の時間において充実させる 3 つの視点「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を、既存の奉仕活動（土曜授業）を中心に、それぞれ 3 つの場「道德の時間（課外授業）で意義付ける場」「社会奉仕に取り組む場（土曜授業）」「環境問題を学び深める場（土曜授業）」に分け関連付け、異校種や地域と連携することで、道德的实践力を育てる場へと醸成させる取組を行った。

1 道德の時間（課外授業）で意義付ける場＝「主体的な学び」

○全校道德の実施

土曜授業で行う奉仕活動（クリーン作戦）を実施する前に、環境問題（ゴミのポイ捨て問題等）について考え、奉仕活動（クリーン作戦）への興味・関心を高めるとともに、活動の見通しをもたせ、自己の考えや課題・目標をしっかりとめた。

* 自らの体験や身近な生活と結び付けた課題を見付けさせる。

* 「どうしてそのようになるのか」「何が原因なのか」を考えさせる。

* 課題・目標を見付け、自覚させる。（資料やワークシートの活用）



2 社会奉仕に取り組む場（土曜授業）＝「対話的な学び」

○小中連携、地域連携の奉仕活動（クリーン作戦）の実践

土曜授業を活用して、小中連携事業のクリーン作戦（本校の卒業生が母校に帰り、小学生と一緒に活動）を実施した。土曜授業として実施することにより、子ども会（地域・保護者）の参加が容易となることから、今年度より、小・中学生、子ども会（地域・保護者）が連携して実施した。

* 中学生、子ども会（地域・保護者）の行動や対話を通して、多様な考えに触れる。

* 小・中学生、子ども会（地域・保護者）の連携が容易になる。



3 環境教育で学び深める場（土曜授業）＝「深い学び」

○市職員による環境教育（土曜授業）の実施

市の職員を講師に迎えゴミの分別等の講話をしていただき、多様な考えに触れ、環境に対する知識を習得した。これにより、多面的・多角的に物事を考え、自己の考えを深めるとともに、より適切な行為や方向性を見出し、実践につなげようとする意欲が向上した。

* 土曜授業を活用することで、専門家を講師として招聘しやすく、小・中学生、子ども会（地域・保護者）といった多くの方々と環境について学ぶ機会が得られた。

* 専門家の考えや意見を通して、自分自身の道德的価値の理解を深めた。

今回の実践のように、教育活動全体（課外授業や学校行事、特別講演等）において 3 つの視点を意識して道德教育を捉える工夫が必要であろう。特に小規模校のように、「対話的な学び」の場に課題がある学校は、異校種や地域・保護者と連携することで、自分と異なるより多くの意見と向かい合い議論することが可能となる。土曜授業を活用することは、自己の道德的価値の理解をより深めることに有効な取組になるであろう。

II 連続的な教育活動（ふるさと学習）を通して地域とともに活性化する取組

本校では、ふるさと学習として、そばの栽培から収穫、そば打ち、収穫祭等を1年間かけて行っている。生活科や総合的な学習の時間、特別活動や行事等では、児童がそばを中心に地域の農産物などについて、調べ・まとめ、発表している。本やインターネットを使った学習も行っているが、実際にそばを栽培し収穫した後、製粉したそばを打ち、試食するなど、キャリア教育や食育にもつなげている。その中で、連続的でより探究的な活動を深めるために、地域人材（外部講師）の活用が必要不可欠となっている。



1 学校運営協議会の活用

土曜授業を進める上で、学校運営協議会を活用している。本校で行っているそば学習の講師には、この学校運営協議会員の方にお越しいただいている。学校運営協議会は、主に地域の方々の仕事が終わった夜に開催されるため、協力を仰ぐことができしており、学校運営協議会において、指導者や講師に来ていただける方々を推薦していただいたり、土曜授業で実施された活動に対する声を聞いたりすることもできている。

2 地域人材（外部講師）の活用で、地域とともに活性化する

地域には農家を営んでいる方が多く、高齢の方も農作業に従事しているため忙しく、時間にゆとりのある方は、ほとんど見受けられない。土曜授業のよさは、そういった方々でも、時間に都合をつけて指導に来ていただけるところにある。学校にお越しいただける理由は、子どもが大好きであったり、子どもと触れ合うことで、元気をもらえたりするからだという声をいただいた。児童は、地域に元気を与えることができるとともに、地域の方々の知識や技術、考え方や思いまで、吸収することができている。



3 連続的な教育活動で、児童の意欲を高める

そばの種まきから収穫といった栽培活動にとどまらず、脱穀、唐箕、製粉したそば粉でのそば打ち体験や地域の方々へのそばの提供といったキャリア教育や食育、奉仕活動などにつながる1年間を通した連続的な教育活動を計画・実施している。継続的な栽培活動に加え、定期的な地域人材（外部講師）の来校により、児童の意欲を高め続け、ふるさと学習として幅広い教育効果を上げている。

今回の実践では、そば学習の集大成として、地域のそば打ち名人の方々に講師として御指導いただき、児童たちが打ったそばを振る舞っている。たくさんの方々にお越しいただくために土曜授業を活用して、地域に恩返しをしている。

【成果と課題】

- 土曜授業の実施により、複式小規模校においては多様な情報収集が可能となり、中学生や地域・保護者と対話することでともに課題を考え、解決することが可能となった。
- 一人でも多くの地域の方々と触れ合い、児童が地域の方々から学び、さらに地域を元気付けるには、土曜授業の活用は有効だった。
- より多くの地域の方に参加をしてもらうために広報活動を工夫する必要がある。

「土曜授業」実践事例（平成 29 年度 年間 6 回実施）

北斗市立市渡小学校

1 本校の土曜授業の目的

地域の連携を深め、子どもたちの創造力を伸ばすために、体験的な活動や自然と親しむ活動の充実を図る。

文化、スポーツ、児童会の集会活動等を中心に、土曜授業として実施することにより、余剰時数を活用して学力向上のための学習時間を設けるなど、平日の時間割に余裕が生じ、落ち着いた雰囲気の中で学習に臨むことができるようにしていく。

2 実践事例（年 6 回実施）

(1) 実施日 平成 29 年 5 月 21 日

(2) 目的

- ・木と五感で「ふれあう」ことにより感性を高め、体験を通して自分自身を大切にすることを知り、人や自然に対する『思いやりやさしさ』の心を育むと共に地域に対する理解を深める。

(3) 内容

①北斗市主催の「植樹祭」に全校体制で参加している。

②昨年度より総合的な学習の時間において「木育」に取り組んでおり、植樹を通して市渡の木、森、自然に興味を持つことができると考えている。将来的には、児童が育てた苗木を植樹することを目指している。

(4) 日程

- | | |
|-------|-----------|
| 10:00 | ●学校出発 |
| 10:20 | ●きじひき高原到着 |
| 10:30 | ◎開会 |
| | ・主催者紹介 |
| | ・主催者挨拶 |
| 11:00 | ◎植樹への参加 |
| 11:30 | ●きじひき高原出発 |
| 11:50 | ●学校到着 |



【成果と課題】

○土曜日に授業を設定したことで、地域の関連行事「植樹祭」に参加することができ、地域の人々とふれあい、地域に対する理解を深め、体験的に学ぶ機会をもつことができた。

○土曜日に授業を設定したことで、多くの保護者に参加を呼びかけ、集会活動等を計画的に実施することができた。

●地域の人材を活用した取組を計画的・継続的に行うことができるようカリキュラムの工夫改善を行うとともに、人材バンク等の整備を進めていく必要がある。

「土曜授業」実践事例（平成29年度 年間10回実施） 「体験的・問題解決的な学習の充実」

北斗市立谷川小学校

〔土曜授業のねらい〕

- 地域の人的・物的教育資源等を活用した体験活動を通して、問題解決的な学習の仕方を身に付ける。
- 学校運営協議会等との連携・協働により、ふるさと教育と道徳性、社会性、人間性を涵養する。
- 余剰時数を活用した教科等の学習の充実と、体験的・問題解決的な学習との関わりを深めるためのカリキュラム・マネジメントを実施する。

〔子どもの変容等〕

- 体験活動に対する興味・関心が高まり、意欲をもって学習や活動に取り組むようになった。
- 教科学習と体験活動の関わりを意識して指導することにより、児童の教科学習等への意欲や関心が高まっている。
- 児童同士の協働や人的教育資源との対話等を通して、学びの広がりや深まりを感じる。

〔体験活動内容（一部）〕

- 5月13日 「R228 クリーン大作戦」
・中学校区での連携授業
- 7月22日 「わくわくワークショップⅢ in 谷川」
・学校運営協議会協働・人的教育資源活用事業
- 8月26日 「理科実験に挑戦しよう！」
・函館工業高等専門学校出前授業
- 10月14日 「木育：木に親しもう！」
・渡島振興局東部森林室・北斗市森林組合支援・学校運営協議会協働
- 1月27日 「アイヌ文化を学ぼう！」
・道アイヌ文化財団・平取町二風谷アイヌ文化アドバイザー支援



【成果と課題】

- 地域住民の授業や行事に対する参画意識が高まり、地域とともにある学校づくりが保護者や地域住民からも高く評価されている。
- 教科で学習した内容を体験活動や他教科等で活用し、横断的な視点で学習につなげられるよう指導を工夫・改善する必要がある。

「土曜授業」実践事例 (平成29年度 年間6回実施)

北斗市立上磯小学校



1 回目

小中連携クリーン作戦 5/13



今年も上磯中学校の生徒と一緒に15グループに分かれて校区内のゴミ拾いを実施し、全部で、45ℓゴミ袋62袋(約2800ℓ)のゴミを拾い集めてきました。低学年は終わってから中学生と一緒に遊ぶなど、交流を深めました。

2 回目

体カアップチャレンジ 7/1



各学年毎に、新体力テストの種目をラリー形式で行い、体力向上の成果を確認する場となりました。1年生から6年生まで全校児童が8種目全てに取り組みました。

3 回目

読書ラリー (1) 7/22



各ブースで、図書ボランティアのお母さん方を始め、運営協議会の呼びかけで集まった方や本校職員などが読み聞かせ等を披露。児童が本に親しむ取組を行いました。

4 回目

思いやりアップチャレンジ 10/14



全学年、道徳の授業を実施しました。5・6年生は少年の主張大会に参加。3年生は各学級に2人ずつ人権擁護委員の方を講師に招き、人権について考える授業を行いました。

5 回目

地域から学ぼう! 11/11

6 回目

読書ラリー (2) 12/9

CSが中心になって地域の方々の協力を得て、14の学習ブースに48名の講師を招いた体験授業を実施する予定です。

【成果と課題】

- 地域の方の協力を得て、学校が予定していた活動を行うことができた。
- 土曜日しか講師を依頼できないため、活動が単発になりやすい。

土曜授業の最後は、好評の読書ラリーの2回目を実施します。